

実践報告 2

予防も含めた効果的な創傷管理で生活者である患者の総合的な健康管理を实践



木村 英子
 十和田市立中央病院
 看護局(看護ケア支援室)看護師長
 皮膚・排泄ケア認定看護師
 (創傷管理関連特定行為研修修了)

地域の高齢化、慢性創傷管理に関する課題意識から特定行為研修を受講。患者の療養生活に合わせた特定行為の实践を行う。特定行為を活用した治療計画により、早期の創傷治癒につながっている。

当院概要と皮膚・排泄ケア認定看護師の活動状況

十和田市立中央病院(以下:当院)は、青森県南東部に位置する二次医療圏の地域中核病院です。病床数は379床で19の診療科があり、看護職員数は361名(看護補助者含む)、全病床の平均在院日数は15.5日(2017年度)で一般病棟のほか精神科病棟、地域包括ケア病棟を有しています。病院理念である「いのちをみまもり、いのちをささえ、いのちをつなぐ医療の实践」をめざし、地域の医療機関、介護・福祉機関、行政機関、および地域住民と連携し、安全で質の高い医療の提供に取り組んでいます。そのため当院では急性期医療のほかに、緩和医療、在宅医療を担い訪問診療を行っています。また、チーム医療が活発に行われており、院内院外の多職種と連携をはかり活動しています。

当院には2008年度に皮膚・排泄ケア認定看護師が2名誕生し、1名が褥瘡管理者として褥瘡専従業務を担い、1名がストーマや失禁ケア担当の業務を担うなど役割分担をしています。そして、褥瘡外来やストーマ外来、看護相談外来と院内・院外のコンサルタントにも対応しています。また、病院と地域一体の研修会の開催や直接地域へ出向

く同行訪問、「ふるさと出前きらめき講座」による地域住民への教育活動も行っています。私は、そのような環境の中で褥瘡管理者として活動し、2016年度に岩手医科大学附属病院高度看護研修センターで創傷管理関連特定行為研修を修了しました。

特定行為研修受講の動機

当地域の高齢化率は31.4%(2017年度)で年々上昇傾向にあります。皮膚・排泄ケア認定看護師として褥瘡や下肢潰瘍などの創傷ケアに携わる中で、改善がはかられない創傷や患者の思いに応えられない自分にジレンマを感じていました。創傷ケアの専門職として創傷治療における意思決定への支援不足、治療の根拠となる創傷アセスメントや治療に対する知識不足を痛感していました。

当地域には創傷の外科的治療における形成外科や血行再建に携わる血管外科系の医療施設がなく、近隣地域と連携し創傷治療を行っている現状です。また、当院の皮膚科は非常勤と応援体制で診療を行っており、慢性の創傷管理について不安がありました。

さらには、東日本大震災時のボランティア活動から、即座に処置を受けられないで苦しんでいる褥瘡患者がいることを知り、高度な知識と技術の

図表1 創傷管理にかかわった年度別延べ患者数の推移(人)

	外来		病棟		
	褥瘡外来	創傷ケア	褥瘡ケア相談	創傷ケア相談	褥瘡回診
2013年度	294	52	236	129	160
2014年度	382	30	193	204	193
2015年度	268	24	150	246	159
2016年度	211	503	191	245	168
2017年度	179	200	195	402	197

習得の必要性を感じました。そのため、皮膚・排泄ケア認定看護師としてのスキルアップをめざし、創傷の専門職として自信を持って患者の生活を守り、意思決定支援を行っていききたいと思い特定行為研修を受講しました。

現在の活動と成果

褥瘡外来をはじめ各科外来や各病棟の創傷に関するコンサルト・処置に携わり、患者の生活背景や思い、病状により医師とともに創傷の治療計画を検討しています。また、治療について患者の立場に立った説明や患者・家族の意思決定支援を行っています。さらには、創傷の早期治癒促進に向けて必要と判断される際には、患者の療養生活に合わせて特定行為の实践を行っています。

創傷管理にかかわった過去5年間の年度別延べ患者数の推移(図表1)をみると、特定行為研修修了2016年度の外来創傷ケア延べ人数は503人で前年度の約20倍となっていました。また、2017年度は病棟からの創傷ケア相談が402人と前年度の1.6倍となっていました。

創傷管理関連で習得した特定行為は、「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」と「創傷に対する陰圧閉鎖療法」です。外来処置においては医師からの直接指示にて特定行為を実施することがあります。入院患者で定期的に特定行為が必要な場合は、医師の手順書により実施します。

高齢者の褥瘡で、早期治癒をめざして特定行為を生かした創傷管理を行った事例を紹介します。

事例

A氏…転倒により左大腿骨転子部を骨折、入院時

にはすでに左大転子部に壊死組織を伴った深部不明の褥瘡があった。

骨折については通常、手術にて早期離床をはかるが、手術部位に褥瘡があるため不可能で、保存療法となった。そのため長期安静臥床による廃用症候群が予測された。

既往歴に糖尿病があるため尿路感染や褥瘡感染での全身状態悪化が予測された。

DESIGN評価による褥瘡の治癒予測日数は398日と長期的な褥瘡処置を伴う介護負担が予測された。

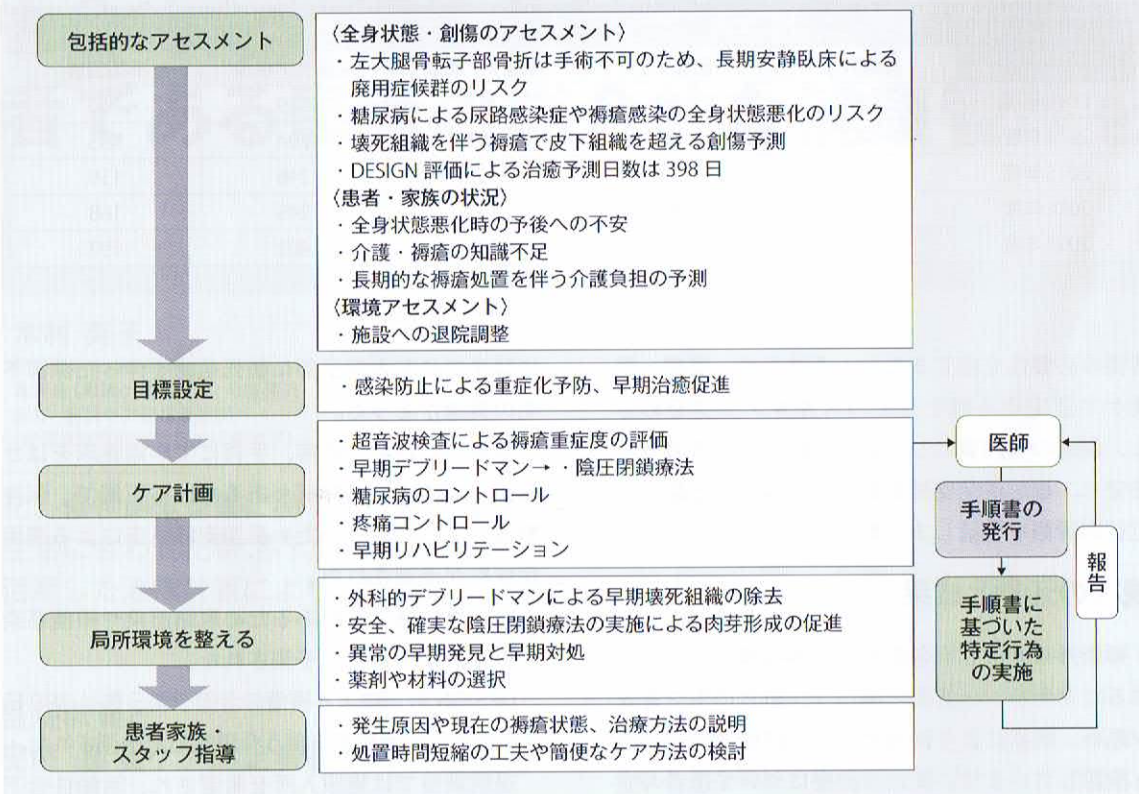
退院調整では施設入所を希望され、活動性低下以外は全身状態が比較的安定していたため、感染防止による重症化予防と早期治癒促進を目標とし、ケア計画は、早期デブリードマンと陰圧閉鎖療法とした。

大転子部に壊死組織の褥瘡があることから皮下組織を超える創傷が予測され、安全に壊死組織の除去をはかるために超音波検査を行った。結果、創底に膿瘍形成が確認されたため、ただちに医師に報告し切開を依頼。その後外科的デブリードマンを行い、陰圧閉鎖療法を実施した。

退院2週間前には外用薬へ変更し入院67日で介護施設に転院となった。退院後は褥瘡外来に通院し、治療開始97日目に治癒に至る。

入院時の治癒予測日数は398日でしたが、外科的デブリードマンによる早期壊死組織の除去と陰圧閉鎖療法を安全に実施できたことで肉芽形成の促進がはかられ、良好な創状態で介護施設へ転院が可能となり、褥瘡も早期治癒に至りました。また、疼痛コントロールをはかりながらの早期リハビリテーションの実施により、自力での車いす移乗が可能となり、廃用症候群を予防できました。

図表 2 高齢者褥瘡事例における特定行為を生かした創傷管理



特定行為を活用することで、重症化予防がはかられ、早期治癒の促進により地域での医療負担の軽減に貢献できました(図表 2)。

皮膚・排泄ケア認定看護師が「臨床推論力」「病態判断力」を強化する意味

特定行為研修では、診断や治療を決定するための思考過程である臨床推論を徹底的にトレーニングしました。

患者の問診から 70% の確率で診断名を導き出せるということで能動的に聞き出していく問診技術は重要です。診断にあたっては問診と身体所見から情報を取り、鑑別診断として漏れがないように 20 以上の疾患を挙げます。そして【否定しなければならない疾患】【日常よくある疾患】に振り分け、見逃してはいけないサインから【最も可能性が高い疾患】を導き、立証するための【必要な検査】を行い【確定診断】としていきます。

また、EBM 実証に基づく治療法を選択するため、問題を定式化し、「P: どんな患者に」「E: 何をすると」「G: 何と比べて」「O: どうなるか」

について文献検索や文献の批判的吟味を行い患者へ適応することなど、治療方針の提示方法も学びました。

さらに、臨床病態学とさまざまな疾患の病因や病態について臨床的知識を学びました。

創傷を抱える患者は、多様な複数の疾患を抱えていることが多く、その病態の把握や基礎疾患の治療は創傷の治療においても重要です。また、創傷から全身状態の悪化を招く危険性もあるため、全身状態と創傷状態を相互に把握することが必要です。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷管理における創傷の病態と治療、創傷アセスメントと管理について学んでいます。その知識に臨床推論を用いることで疾患の病態や創状態、患者の生活状況や背景、動作、言動、QOL などさまざまな情報から包括的にアセスメントしリスクを予測します。そして、その中で最も回避しなければならないリスクを判断し、患者に不利益とならないような方法を選択して提供します。

その手段として皮膚・排泄ケア認定看護師のス

キルに特定行為研修で得た知識や技術が加わることでにより選択肢の幅が広がり、タイムリーに対処することができます。また、予測されるリスクに対して、多方面からの早期予防ケアの実施や指導をすることも可能です。さらに、特定行為を含めたかかわりにより、対象者の健康や QOL を守るという責任感が増し、ケアが継続されるよう地域との連携も強化されます。

皮膚・排泄ケア認定看護師が臨床推論力や病態判断力を持つことで、生活する患者の予防も含めた効果的な創傷管理ができ、さらに個々の総合的な健康管理へと発展させることができると考えます。また、認定看護師の調整力やコミュニケーション力により、患者の立場に立った医師との治療方針の検討を含め、多職種との協働・連携がさ

らに進み、患者に質の高い医療が提供できると思います。

患者の QOL 向上に向けた今後の展望

特定行為研修を修了したことで、ジレンマを感じることなく、創傷を抱えた患者の創傷管理や生活支援、意思決定支援に積極的に取り組むことができるようになりました。また、医師とともに特定行為を活用した治療計画にて早期に治癒促進がはかられ、成果を得ていると思います。

超高齢社会において患者の QOL を守り、創傷治癒が促進されるよう、また創傷発生を予防できるよう、特定行為研修を受けた皮膚・排泄ケア認定看護師としての創傷管理の知識と技術を生かし、レベルアップをはかっていきたいと思っています。